

西表島におけるバンケンの観察記録

菊地正太郎¹・松本千枝子²

1. 琉球大学大学院理工学研究科 進化・生態学講座. 〒903-0213 沖縄県西原町千原 1

2. 西表野生生物保護センター. 〒907-1432 沖縄県竹富町古見

はじめに

バンケン *Centropus bengalensis* はインドから中国南部・南東部, 台湾と, フィリピン, マレー半島, ジャワ, ボルネオなど東南アジアに広く分布している (Dickinson 2003 ほか). 日本では唯一2001年3月に沖縄県与那国島で迷鳥として記録された (本若 2001, 沖縄野鳥研究会 2002, 五百沢ほか 2004). 筆者らは沖縄県西表島で2003年12月に交通事故死した 1羽と2004年 2月に農地で行動する 1羽を観察した. 本種の死体回収は国内で初めてであり, 西表島での観察も初記録であること, また与那国島の記録はまだ論文として発表されておらず, 今後の日本鳥類目録の改訂に際してバンケンが掲載されるには論文として発表しておくことが必要であるため, ここに報告する.

観察記録および考察

1. 死亡個体

2003年12月31日午後 5時ごろ, 島の南東部にあたる大原～豊原集落間の道路上 (24°16'N, 123°52'E) でバンケンと思われる個体が走行中の自動車に衝突して死亡, 回収され, 島民による保管を経て2004年 1月30日に西表野生生物保護センターへ届けられた.

この個体は頭部・頸部から背, 肩羽の羽衣は暗褐色で, 縦斑状に見える黄白色の羽軸が目立った (図 1, 2). 雨覆と三列風切は暗褐色と深い朱色が入り混じっていた. 初列・次列風切は全体に深い朱色で先端にやや幅広い黒褐色部があった. 胸から腹は全体に淡黄色で, 脇から下尾筒にかけてと胸は黒褐色の細かい横斑がみられた. 尾羽は中央の 1枚だけが黒地に細い褐色帯を持ち, ほかの 9枚はすべて黒色で先端部のみ淡黄色であった. また黒色帯と赤褐色帯が交互に連続する羽が上尾筒から多数伸びており, 長いものは尾羽の中央部にまで達していた. 上嘴は嘴峰部が暗褐色で嘴縁へ向かうほど淡くなり, 下嘴は肌色であった. 脚は暗灰色で後趾の爪が際立って長かった. 計測値を表 1に示す.

2004年11月 6日 受理

キーワード: 西表島, バンケン, 初記録

本論文のカラー写真を<http://www.wbsj.org/nature/database/strix/23/kikuchi.html>でみる
ことができます



図 1. 死体回収されたバンケンの上側。

Fig. 1. Dorsal view of the Lesser Coucal collected on Iriomote Island.



図 2. 死体回収されたバンケンの下側。

Fig. 2. Ventral view of the Lesser Coucal collected on Iriomote Island.

表 1. 死体回収されたバンケンの計測値。

Table 1. External measurements of the Lesser Coucal collected in Iriomote Island.

計測部位	Body parts	計測値	Measurements
全長	total length	400 mm	
自然翼長	natural wing length	184 mm	
翼開長	wingspan	520 mm	
尾長	tail length	220 mm	
露出嘴峰長	exposed culmen	23.70 mm	
ふ蹠長	tarsus length	44.25 mm	
体重	body weight	159 g	

計測は河合雲平および(有)東京内田科学社。

これらの特徴はバンケンの成鳥冬羽および幼鳥に酷似している(内田 1927, 黒田 1934, 台湾野鳥資訊社・日本野鳥の会 1991, del Hoyo et al. 1997, Robson 2000). コユビバンケン *C. rectunguis* の幼鳥とオオバンケン *C. sinensis* の幼鳥の羽衣にも似るが, コユビバンケン幼鳥は黒い尾の全体に白っぽい横帯があることなどで区別でき, オオバンケン幼鳥は体下面全体が暗色で白い横帯があることや体サイズの違いからも除外できる(del Hoyo et al. 1997, Robson 2000). これらの点からこの個体をバンケンであると判断した。

バンケンの成鳥冬羽と幼鳥の違いは文献によって様々な記述があるが, 幼鳥は赤みがかった体上面・翼上面全体あるいは風切羽に黒褐色横斑があるとされる(黒田 1934, del Hoyo et al. 1997, Robson 2000). 今回の死亡個体にはこの横斑がみられないため, 成鳥冬羽であると考えられた. また, 中央尾羽だけに褐色帯があることを成鳥冬羽の特徴として挙げている文献(台湾野鳥資訊社・日本野鳥の会 1991)があり, 今回の個体を成鳥冬羽とする判断を支持する. しかし, 褐色帯には触れず尾羽が全て黒色である夏羽との相違点を挙げていない文献(内田1927, del Hoyo et al. 1997, Robson 2000)や横帯は季節変化によって種々であるとする記述(黒田 1934)もある. 他方, 幼鳥について「黒い尾羽全体に赤みがかった横帯がある. 最初の冬に成鳥冬羽の羽衣へ換羽するが翼と

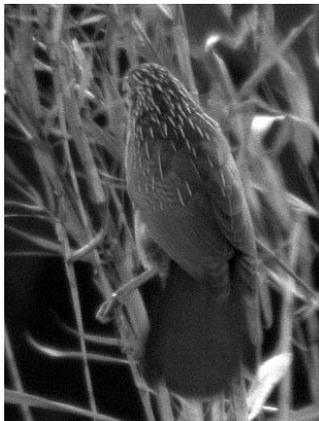


図 3. 休耕田で2004年 2月12日に観察されたバンケン.

Fig. 3. The Lesser Coucal observed in a fallow field in Iriomote Island on Feb. 12, 2004.



図 4. 休耕田で2004年 2月14日に観察されたバンケン.

Fig. 4. The Lesser Coucal observed in a fallow field in Iriomote Island on Feb. 14, 2004.

尾にいくぶん横斑を残す」とする記述 (Robson 2000) もあり、褐色帯のある中央尾羽が成鳥冬羽特有のものなのか判然としない。したがって今回の個体は成鳥冬羽への換羽中の若鳥である可能性もあると思われた。

なおこの個体は展示用剥製標本として同センターで保管されている。

2. 野外観察個体

2004年 2月12日午前 8時12分、島の北西部、浦内集落近くの水田(24°25'N, 123°47'E)で、あぜに孤立する高さ約 4mの低木へ低空で飛来したバンケンと思われる個体を観察した。この個体は枝移りをした後、15mほど飛んであぜに密生した高さ1.5mほどの草に止まり、草上を転々と移動してから休耕田のあぜへ降りた。採食する様子はなく、静止して周囲を見ていたがすぐに見失った。2日後の 2月14日午前 8時10分にも同じ水田で 1羽を観察した。県道を挟んで田の前に広がる河口沿いの低木林から低空で飛来し、休耕田のあぜに密生した高さ0.8mほどの草の塊の上に乗るようにして止まった。そのまま静止して周囲を見ていたが午前 8時55分に見失った。

12日の個体の羽衣は全体に死体回収個体とおおむね同様だったが、尾羽はすべて黒色であり、褐色帯を持つ中央尾羽と、これに類似した模様の長い上尾筒がみられなかった。また背から雨覆と三列風切に暗褐色部が少なく、赤みがやや明るくみえた(図 3)。14日の個体は尾羽を一部しか観察できなかったが、頭部から背、翼にかけては12日の観察個体と同様の羽衣であり、観察地も同じであるため同一個体であると考えられた(図 4)。

観察の結果、頭部と体下面、嘴の色合いなどの特徴からバンケン成鳥冬羽であると判断した。ただし褐色帯のある長い上尾筒がないことと、背から雨覆、三列風切にかけて暗褐色部がないか少なく、赤みが冬羽より明るい点は夏羽の特徴である(内田 1927, del Hoyo et al. 1997, Robson

2000). 3月に与那国島で撮影された個体は長い上尾筒のない夏羽だったことから(本若 2001 ほか), 今回観察した 2月の時点で冬羽から夏羽への換羽途上であった可能性も考えられるが, 詳細な観察ができず判断できなかった。

なお死亡個体, 野外観察個体とも足環など, かご脱けを示唆する検討材料は得られなかった。

バンケンの分類には, 亜種を認めていないものも含めて諸説あるが(山階 1986, Sibley & Monroe 1990, Monroe & Sibley 1993, del Hoyo et al. 1997, Robson 2000, Dickinson 2003), 2001年の与那国島の個体は最も近い生息地である台湾から亜種 *C. b. lignator* が飛来した可能性が高いと考えられている(本若 2001, 沖縄野鳥研究会 2002)。筆者らは亜種の同定に至っていないものの, 西表島は台湾から約200km, 与那国島から約70kmと近隣に位置することから, 今回の個体も台湾から飛来した可能性が考えられる。

謝 辞

死亡個体は西表島在住の竹盛洋一氏と西表島エコツアーリズムセンターの伊谷玄氏が回収・保管されたものを移譲いただいた。一部の資料収集については山階鳥類研究所資料室にお世話になった。調査と本稿執筆にあたっては琉球大学の伊澤雅子助教授にご指導頂いた。また調査の一部は総合地球環境学研究所西表プロジェクトの一環として行なった。記して皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- del Hoyo, J., Elliott, A. & Sargatal, J. (eds). 1997. Handbook of the Birds of the World. Vol. 4. Sandgrouse to Cuckoos. Lynx Edicions, Barcelona.
- Dickinson, E. C. (ed). 2003. The Howard & Moore Complete Checklist of the Birds of the World. 3rd Edition. Princeton University Press, Princeton, New Jersey.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸. 2004. 日本の鳥550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 黒田長禮. 1934. 鳥類原色大図説 第二巻. 修教社書院, 東京.
- Monroe, B.L., Jr. & Sibley, C.G. 1993. A World Checklist of Birds. Yale University Press, New Haven.
- 本若博次. 2001. 「バンケン」日本初記録. Birder 15(8): 38-39.
- 沖縄野鳥研究会. 2002. 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇市.
- Robson, C. 2000. A Field Guide to the Birds of South-east Asia. New Holland Publishers, London.
- Sibley, C.G. & Monroe, B.L., Jr. 1990. Distribution and Taxonomy of Birds of the World. Yale University Press, New Haven.
- 台湾野鳥資訊社・日本野鳥の会(監). 1991. 台湾野鳥図鑑. 亜舎図書有限公司, 台湾.
- 内田清之助. 1927. 日本鳥類図説 続編 増訂四版. 警醒社書店, 東京.
- 山階芳麿. 1986. 世界鳥類和名辞典. 大学書林, 東京.

Records of Lesser Coucals on Iriomote Island, southern Japan

Syotaro Kikuchi¹ & Chieko Matsumoto²

1. Laboratory of Ecology and Systematics, Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan
2. Iriomote Wildlife Conservation Center, Komi, Taketomi, Okinawa 907-1432, Japan

Two Lesser Coucals *Centropus bengalensis* were observed on Iriomote Island. A corpse was found on December 31, 2003, and the other was observed in a fallow field on February 12 and 14, 2004. These are the first records of this species on Iriomote Island.

Key words: *Centropus bengalensis*, *Iriomote Island*, *Lesser Coucal*

